

今回の
お知らせ

- 新潟本社代表就任あいさつ
- コミュニケーションブースや各戸訪問で多くいただいた声
- 原子力発電所の取り組みをご説明する漫画リーフレット
- 柏崎刈羽原子力発電所2号機における防火壁の不備について

就任あいさつ

福島第一原子力発電所の事故から6年以上が経ちましたが、今なお福島県の皆さまをはじめ、新潟県の皆さま、広く社会の皆さまに、たいへんなご迷惑とご心配をお掛けしておりますことを、改めて心よりお詫び申し上げます。このたび、木村公一の後任として新潟本社代表に就任いたしました。

現在当社では、柏崎市、刈羽村での各戸訪問や、県内各地で開催しているコミュニケーションブースなど、新潟県内にお住まいの皆さまのご意見ご要望をお伺いする活動を行っております。先日、私自身も柏崎市、刈羽村にお住まいの皆さまを訪問させていただきましたが、地域の方々のお気持ちやお考えに思いを至らせ、地元本位・社会目線で行動していくことの重要性を改めて強く感じているところです。

今後は、「柏崎刈羽原子力発電所など電力設備を立地させていただいている地域の方々をはじめ、新潟県の皆さまのことを第一に考えて行動する」という事を肝に銘じ、新潟本社の取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



新潟本社代表
橋田 昌哉
(きった まさや)

コミュニケーションブースや各戸訪問で多くいただいた声におこたえします

Q 万が一、原子力発電所で事故が起こって避難が必要となった場合、東京電力としてどのような対応をするのか？

A 万が一の事故時に住民の皆さまの安全を確保するため、当社としても、避難について最大限の活動を行ってまいりたいと考えています。

具体的には、地域の住民の皆さまの避難にあたり、当社社員の各自治体への派遣や、介護を必要とされる方々の避難支援、福祉施設や病院・避難経路等々の運営支援、放射線の知識を持つ当社社員による放射線測定など、様々な対応を検討しており、介護を必要とされる方々の避難支援に必要な知識や技術を習得するための研修も行っています。



【介護技術研修の様子】



【廃炉作業の進捗をご説明する動画】

Q 福島第一原子力発電所の廃炉作業は順調にすすんでいるのか？

A 溶け落ちた核燃料（デブリ）の取出しなど、まだまだ課題はありますが、事故当時に比べ、全面マスクや防護服を着用しなければならないエリアは大幅に縮小し、また、大型休憩所を設置するなど、作業環境は大きく改善されており、現在は廃炉の核心とも言える作業に順次シフトしています。

なお、当社ホームページでは、事故当時の状況を振り返りながら廃炉作業の進捗を動画でご説明していますので、ぜひご覧ください。



原子力発電所の取り組みをご説明する漫画リーフレット



vol.1

事故の反省から考え方を
変えた安全対策



vol.2

事故の教訓と安全対策
(前篇)



vol.3

事故の教訓と安全対策
(後篇)



vol.4

緊急時対応訓練

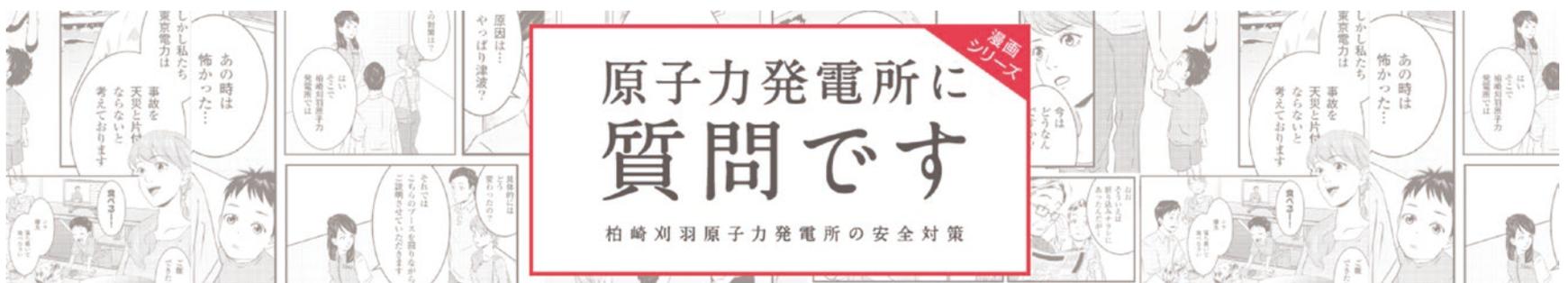
当社ホームページでは、原子力発電所の安全対策などの取り組みについて、漫画を用いて分かりやすくご説明しています。ぜひご覧ください。



また、ご希望の方にはこのリーフレットを無料で配送させていただきますので、下記申し込み先までご連絡ください。

東京電力ホールディングス新潟本社
漫画リーフレット係

TEL 025-285-2202(受付専用電話)
専用電話開設期間 8月31日(木)まで
受付時間 9:00~17:00



柏崎刈羽原子力発電所2号機の防火壁に不備を発見しました

柏崎刈羽原子力発電所2号機におきまして、火事が起こった際に延焼を防ぐための壁の不備を2か所発見しました。建築基準法では、防火区画と呼ばれるエリアの壁に穴をあけて配管等を通す場合、火事が起こった際の延焼を防ぐために配管と壁の隙間をモルタル等の不燃材で埋めるよう定められていますが、地下1階では直径約20センチ、地下5階では直径約8センチの穴においてそのような措置ができていませんでした。なお、問題があった箇所は隙間を埋める措置を速やかに講じております。発電所の防火対策に不備があったことを反省するとともに、同様の箇所が他にないか今後確認を進めてまいります。

Q 隙間を埋めていない状態がなぜ問題なのか？

A 隙間がある状態では、万が一火事が起きた際に、炎や煙により被害を受ける範囲が拡大してしまうおそれがあります。そのため建築基準法では、「防火区画」というものが定められており、この防火区画においては、壁を貫通させて配管等を設置する場合には、モルタル等で隙間を埋めるよう定めています。

Q いつからそのような状態だったのか？

A 古い記録が残っていないため確定的なことは言えませんが、15年ほど前に漏水補修を実施しているため、その時からと思われます。なぜ今まで発見できなかったのかについては今後確認してまいります。同様の箇所が確認された場合には速やかに是正してまいります。

Q 他には同様の箇所はないのか？

A 他号機を含め、同様の箇所がないか点検を始めており、10月末を目途に完了する予定です。

